

国語（中学生） 「現代語文法 品詞①」

1. 文節・・・途中、「（ ）」「サ」「（ ）」を入れられる区切れ目。

例…さて、アブラハムの時代にあった先のききんとは別に、この国にまたききんがあった。（創26…1）

例…イサクは年をとり、視力が衰えてよく見えなくなったとき、

長男のエサウを呼び寄せて彼に「息子よ」と言った。（創27…1）

*文節は、さらに細かく、単語に分けることができます。例…アブラハムの↓アブラハム+の

2. 単語⇕自立語と付属語。

自立語・・・それだけで意味の「①分かる ②分からない」単語。 例…アブラハム

付属語・・・それだけで意味の「①分かる ②分からない」単語。例…「の

3. 活用・・・単語の形が変化することです。活用する単語を（ ）と言います。

例…ヨハネは…イエスが歩いて行かれるのを見て、「見よ、神の小羊」と言った。

ふたりの弟子は、彼がそう言うのを聞いて、イエスについて行った。（ヨハ1…35、36）

4. 活用する自立語・・・動詞・形容詞・形容動詞。

・動詞 Ⅱ「動き」を表す単語。言いきりの形は、（ ）段で終わる。言う、話す、作る、など。

・形容詞 Ⅱものの様子や状態を表す単語。言いきりの形は、「（ ）」で終わる。美しい、青い、小さい、など。

・形容動詞Ⅱものの様子や状態を表す単語。言いきりの形は、「（ ）」で終わる。静かだ、豊かだ、大胆だ、など。

問：言いきりの形と、品詞を答えてください。

① 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にしなくなかったので、内密に去らせようと決めた。

② そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。

③ それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。

5. 活用しない自立語・・・名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞。

・名詞
「ものの名前を表す単語。名詞のことを、（「用言」は何でしたか？）と呼ぶ。」

・副詞
Ⅱ
() を修飾する単語。はつきり、すぐに、とても、など。

・連体詞 Ⅱ (一) を修飾する単語。この、大きな、いわゆる、など。

・接続詞
 Ⅱ文と文をつなぐ単語。そして、しかし、など。

・感動詞
 〓感動、呼びかけなどを表す単語。おお、へえ、ほら、など。

問..品詞を答えてください。

①ところが、シモンのしゅうとめが熱病で床に書いていたので、人々はさっそく彼女のことをイエスに知らせた。

②ある女の人が、非常に高価な香油の入った小さな壺を持って、みもとにやって来た。

③「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救いました。」すると、すぐに彼は見えるようになり、